※暫定版・関係者のみ

平成 29 年度
地産地消コーディネーター派遣事業報告会 開催報告

■開催日時：平成 30 年 3 月 2 日(金) 13:00～17:30
■開催場所：東京都千代田区（エッサム神田ホール 1 号館 3 階「大会議室」(301)
■参加人数：89 名（派遣地区発表者、派遣専門家、企画委員を含む）
■実施プログラム（敬称略）

13:00～　開会・挨拶

■主催者挨拶：(一財)都市農山漁村交流活性化機構 専務理事　山野 昭二
■農林水産省挨拶：農林水産省 食文化・市場開拓課 課長補佐　平野 洋一
■事業概要の報告：(一財)都市農山漁村交流活性化機構 業務第2部　上野 美帆

13:20～17:30　派遣事業報告

1　静岡県 沼津市

（取組概要）
栄養士、学校給食会、青果市場、行政関係部署による意見交換の実施で現状の納入の仕組や課題の情報を共有が図られた。地場産物の使用量を数値化、納入ルートの改善、栄養士と生産者の直接交流の実施、関係者連絡会の設置が決定　等

沼津市農林農地課
塩川 亜沙美

山形村立山形小学校
栄養教諭　杉木 悦子

派遣専門家からのコメント：市農林農地課での取り組む姿勢が真剣で、担当者が現場をよく歩き、コミュニケーションを深めたことで関係者への理解が広がった。市の学校給食会もあり、それぞれの役割を上手く活用することで、地場産物の利用は今後も伸びてくる。

2　静岡県 袋井市（NPO法人やくわり）

（取組概要）
具体的な衛生管理指導による施設職員への衛生教育の実施、地元で開催された HACCP 研修への参加、加工エリア立ち入り時のルールをチェック項目で整理、加工作業について利用者の特性を活かした作業行程のマニュアル化の検討　等

NPO やくわり 鈴木 亜依
袋井市教育委員会 石塚 浩司

女子栄養大学
名誉教授　金田 雅代

派遣専門家からのコメント：作って貰うものは全て使っていくことで、生産者への信頼になる。規格外もどう使っていくかを考えることが大事。今回は、炒めタマネギを加工して冷凍保存し、調理場で試作も行った。給食費を市内に還元していくことこそが地産地消である。

3　愛知県 岡崎市

（取組概要）
学校給食で使用する野菜量と市場の流通量を比較して活用可能な地場産物の掘り起し、そのデータに基づく岡崎市産への切り替え、岡崎市産優先購入に関しての整備（購入見込量の把握、見積書への工夫）、青果市場を加えた推進体制の見直し　等。

岡崎市教育委員会事務局
総務課　平岩 靖弘

女子栄養大学
名誉教授　金田 雅代

派遣専門家からのコメント：市学校給食協会が事務を担う事で、栄養教諭は献立作成や食育活動など本来の仕事ができる。地場産物利用の阻害要因を分析し、増やすにはどうするか、使用量調査など具体的な方法を助言。学校給食協会機能そのものを変えようと取り組んだ。

4　岐阜県 恵那市

（取組概要）
学校給食での食材使用量の把握、利用希望食材の聞き取りによる使用可能な地場産食材の掘り起し、学校給食週間（1 週間）による地場産物利用に特化した献立の工夫と地場産率向上の実証、生産者と栄養教諭の交流の場の設定　等。

恵那市 農林部
農政課　塚本 恵伍

中京学院大学短期大学部
遠山 致得子

派遣専門家からのコメント：市全体の納入体制が無かったが、今回、農政課が動き出し頼もしい。使用可能な地場産食材の掘り起し、献立への工夫、生産者との交流の場の設置等の成果が出来た。より多くの地場産物を使うための工夫と合わせて、続けて発展して貰いたい。

5　福井県坂井農林総合事務所

（取組概要）
納入野菜の品質保持の理解促進、生産者との話し合いの場の設定等を実施。市場出荷品目の把握、入札制度の見直し、定期的な目合わせ会による品質管理、保管庫の設置等の検討を予定。

坂井農林総合事務所
技術経営支援課 大濃 純子

（左）唐津市立浜玉中学校
栄養教諭　福山 隆志
（右）みなかみ農村公園公社
参与　西坂 文秀

派遣専門家からのコメント（福山）：厳しい自然条件の中、地場産率60%は頑張っている。食育への取組も積極的で、体制等の見直しで今後も伸びる。地域で作られるものは全て使うという視点に立ち、学校給食現場で出来ることを考えて行くことが生産者への信頼になる。

派遣専門家からのコメント（西坂）：学校給食側と生産者側で、いかに相手の立場に立てるか、相手を思って譲り合うことができるかという事が、学校給食での地場産物利用を進める手段である。誰の為に、何の為に取り組むのか、共通の認識や理解を持って進めていくこと。

6　兵庫県 丹波市（丹波市学校給食用農産物生産者組織連絡協議会）

（取組概要）
集荷や配達、検品を実施する調整役の設置に向けての関係者での意見交換の実施、調整役を中心とした新たな納入ルート案の作成、市内統一の品質チェックリストの作成、栽培講習会等の作成、給食での使用量に即した栽培の検討　等。

丹波市 農業振興課
山崎 陽子

（株）シンセニアン
代表取締役　勝本 吉伸

派遣専門家からのコメント：地場産率を上げるという明確な目標に対して、給食での使用量を元に、地場産物の流通量を把握し、栽培計画に反映、無いものは作る、栽培をずらし長く使える工夫等を助言。また、直売所を出荷拠点にする納入システム構築の提案も行った。

7　岡山県赤磐市（あかいわ地場食材地産地消推進協議会）

（取組概要）
生産者への取材による食育関連パネルの作成、給食センターや直売所等との意見交換、生産者との研修交流会、給食会食会の開催、「日別食材予定使用量」の作成と実施、次年度に向けた実証事業への提案（集荷システム）等。

赤磐市 農林課
松嶋 秀行

（公財）兵庫県学校給食・食育
支援センター　田路 永子

派遣専門家からのコメント：担当者の熱意が伝わり、関係者が、地場産物利用ついて前向きに取り組んでいる。現在、物資購入はそれぞれの裁量に任されているのも伸び悩みの原因。誰のために取り組むのか、共通認識を持って進めることで、まだまだ地場産率は伸びる。

8　愛媛県 西予市

（取組概要）
先進地視察、調理員を対象とした勉強会の実施、納入業者との協議の場づくり、学校給食週間に向けて目標の地場産率に達する献立の検討と地場産率向上の実証、生産者と子ども達による学校給食交流会の実施　等

（左）西予市 農業水産課
宇都宮 弘志郎
（右）西予市立宇和中学校 栄養教諭
林 佳代

元丸亀市立綾歌中学校
栄養教諭 村井 栄子

派遣専門家からのコメント：西予市長の地産地消に対する熱い思いを受け、具体的な目標を設置。地場食材を把握することで献立へ活かされる。地産地消は地元への経済効果、子ども達への教育効果も求められる。学校給食を機に他施設への納入拡大など、年間を通じて生産者のモチベーションを保つ工夫に繋げて欲しい。

※参加の企画委員からのコメント（五十音順）

金丸弘美（食ジャーナリスト）
専門家が入り、包括的に課題解決を進められている様子が良く分かった。同じような課題を持つ地域にとっても、この具体的な手法が参考になる。日本は今、漁獲量も減り、農業現場での高齢化は進む一方。子ども達の肥満率が上がるなど健康被害も出ている。地産地消の取組は、地域内でのお金の循環を生み、健康的な食の提供は、医療費削減にもつながる。社会的な課題も含めることで、様々な関係者が連携でき、ノウハウが共有できる。今日の課題解決の様子は、他の地域の一歩につながる内容だった。

熊谷文伸（㈱AIHO 営業推進部長）
地場産物の掘り起し、納入ルートの改善等の課題に対して、専門家が的確なアドバイスをしており、その役割が果たされていた。地場産物利用はいったん動き出せば、次の目標が出来て、地産地消率は上がってくる。継続性を持って今後も取り組んでほしい。

野見山敏雄（東京農工大学大学院 教授）
派遣専門家が的確に指導・助言を行っており、課題解決に向けて分かりやすい事例だった。農産物流通論を研究する立場として、流通には、「物流」、「商流」、「情報流」の 3 つがある。調理場、学校、生産者等の関係者に、うまく情報が流れていなかったところに専門家が入ることで、現場が動き出す。今日の発表では、発展段階での課題解決の手法を紹介した。参加者も持ち帰って活かしやすい内容だった。

村上かほり（（一財）塩尻市農業公社 農産物流通コーディネーター）
地産地消は本当に求められているのか？という課題が心に残った。品物の安さを求めると、市場では売れない品質や規格外の物が増え、安全で良い品物となれば、値段は上がってくる。学校給食納入を最初に取り組んだ生産者が高齢化し、世代交代が始める中で、ただ子ども達の為という思いだけでは続けられない。若手の生産者も納入できる、収入につながる仕組みがあれば、取組も継続できると思う。

平成 29 年度 地産地消コーディネーター派遣事業報告会 参加者アンケート（集約）

1　今回の報告会の感想

①非常に満足（15）　②満足（21）　③普通（1）　④やや不満（0）　⑤不満（0）

・派遣事業報告をされた各市の取組が大変勉強になった。地産地消の推進には、概ね共通の課題があるのと感じた。
・農政課の方が中心となって動いている事例が多く、素晴らしい。
・地域とコーディネーターが二人三脚で成果を上げており、課題に対する真摯な姿勢が参考になった。
・規格外の取扱で生産者とトラブルがある。使用量の数値化、規格外の取扱い等、勉強になった。
・工夫、苦労をして、システムを構築されているのがよくわかった。
・給食センターにおいても、規格外をいかに活用していくか、考えることはたくさんある。
・かなり具体的に取組内容を示されたので、今後、地元での取組に活かすイメージが出来た。
・給食は「市町村」単位が一番動きやすいかと思う。ただ、市町村の中でも部局がまたがり、考えが違う事も乗り越えなければいけないので苦労も多い。
・自分のところでも活用できる内容があり、取り組んでみたい。
・他県の取組を知る機会で良かった。
・学校と生産者の間に入ってくれる組織がしっかりとあると、地産地消もより取り組みやすいと感じた
・生産者と栄養教諭が直接、話ができる機会、その調整をしてくれる組織があると取り組みやすい。
・同じような課題でも、様々なアプローチで解決されており、その努力が勉強になった。
・自分達ももっと頑張らないといけないと実感できる。
・各地の自治体における地産地消推進の課題や取組、成果等を知ることが出来て、参考になった。同時に刺激も受けた。
・発表時間がもう少し長く、詳細まで聞けるより良いと感じた。
・各地の取組をもう一度じっくり見直し、今後の業務の参考にしたい。

2　今回参加して、ご自身の学校や地域で取り組みたいと思ったこと、課題に感じたこと

・福祉施設との連携
・加工品の開発と適切な活用
・地場産物を使用した給食を活用した食育活動の実施
・市内で生産されている野菜の把握
・規格外品の取扱の検討（調理の工夫、カット野菜への加工など）
・調理員を対象とした勉強会
・農家、栄養士、教育委員会等組織の上手な連携
・産直市との連携
・先進地視察
・既製品の見直し
・生産者のモチベーションの向上
・数値目標の設定
・今後の取組スケジュールの明確化

・生産者の高齢化、農地減少、関係機関の連携のなさ、栄養士の意識など、課題に感じている
・当市では、12,000 食規模の新しい学校給食センターの整備を進めている。慣行野菜の使用を増やす取組が求められているが、生産者が見つからず、地産地消が進まない状況にある。
・全市的な取組（組織づくり）が必要と感じた。
・ジビエを給食で出したいと考えているが、量の確保や味の保証の点で未解決の部分がある。
・自分の地域の納入状況を細かく把握し、誰でもわかるようにグラフ化することが重要だと感じた。
・栄養教諭 1 人では、コーディネートに限界がある。成果を上げている地域は教育委員会の協力がある。いかに協力して貰えるかがカギだと思う。
・「何のために学校で地産地消をやるのか」という意義の整理と関係者への周知について、考えさせられた。（本当に求められているのか、理想論ではないのか）
・試食会や授業以外にも生産者のコメントを資料として子ども達に伝えることは良いと感じた。
・子ども達にも地産地消っていいなと思って貰えるような取り組みにしたい。
・行政及び栄養職員が市内農家の現場（畑）を視察できる機会をもっと多く設けられたら良いと感じた。
・東京に比べ、地方では地元食材の供給量・種類共にそもそも多く感じた
・あまり地場産物の活用が進んでいない市町の担当者と話し合いの機会を持ちたい。
・リアルタイムで全員が数値の確認ができるシステムはどこかで取り入れられたらと思う。
・課題の整理、生産、給食現場、行政のネットワーク。ないから出来ないから、無いから作るをキーワードに取り組みたい

3　コーディネーター派遣事業への取組希望

①はい（10）　②いいえ（0）　③わからない（12）

4　全体を通じての感想・意見

・全国各地の成功事例、課題等はとても参考になり、また各担当者や専門の先生方と直接お話できる機会は少ないので、とてもありがたい。
・地産地消に向けて非常に効果的な取組と思う。たくさんの自治体等が同じような課題を抱えていると思うので、積極的な働きかけをして欲しい。
・普段仕事をしていると自分の市や近隣の市の情報ぐらいしか入ってこないが、このように全国各地から様々な方が見えてそれぞれ特徴のある事業や取組の発表を聞けて、とても勉強になった。
・このような会議に参加するところは意識が高く関心があり、少しずつ成果を上げていくと思う。数年で異動する栄養教諭等の意識付け、関心の高まりが必要だが、それには県がしっかりと研修の場を設けていくべきと感じる。どんな人が異動してきても、考え方が同じレベルであるのが望ましい。
・地元の食材を使いたいと思っても、「何があるか分からない」等のモヤモヤや、1 人で動くには限界があると思っている。学校の栄養教諭からすると、この取組は周りが協力してくれる良い機会となり、新たな地産地消の活用が出来ていいと思う。
・コーディネーター事業は、どこの自治体もが抱えている、地産地消への取組への停滞感を打破して頂く、起爆剤のような支援になっていると思う。内々で悶々と進まない課題解決に有りがたい事業。
・地産地消の意義を考えるとても良い機会になった。何をしなければならないのか、何を取り組めばどういう結果がでるのかが分かり、今後に向けて勉強になった。今後もこのような事業、研修会を継続して頂きたい。